カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	国際理解教育コース

教育学部の教育目的(具体的に記述・箇条書き)			学校教育教員養成課程の教育目的(具体的に記述・箇条書き)				国際理解教育コースの教育目的		
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。			子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。また、教職を目指すものとして、自らの生き方について謙虚に反省できる人材を養成する。				1. 国際理解教育の歴史と現状およびその将来の可能性を認識する。 2. 異なる文化や価値観をもつ人々と共生していくことの意味を理解する。 3. 異文化学習の方法についての知識と技術を得る。 4. 国際化しグローバル化する社会の中で、文化の違いを超えて世界の人々と理解・協力しあう。		
学校教育教員養成課程国際理解教育コースのカリキュラム			学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP)（◎＝GP達成のために、特に重要な事項、○＝GP達成のために、重要な事項、△＝GP達成のために、望ましい事項）				国際理解教育コースのGraduation Policy(GP)（◎＝GP達成のために、特に重要な事項、○＝GP達成のために、重要な事項、△＝GP達成のために、望ましい事項）		
授業科目名	授業科目の主題(箇条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。)	S 1．教育理念理解力・教職展望力：　教育の理念や制度、教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2. 教育方法・技術力、指導力：幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力・　道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S 4．教育実践力：教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。	1. 小学校教育および国際理解教育に関する基礎的な知識と技術をもち、児童に合わせてそれらを応用し、実践することができる。	2. 自らのものとは異なる文化や価値観を認識し、それら背景とする人々と思慮深く接することができる。	3. 国際理解教育に関わる諸問題について、教育の視点をもって調査し、批判的に思考し、自らの考えを適切な方法で表現することができる。
学部共通科目									
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。　2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎			1. ○ 2. ○ 3. ◎	3. ○	1. ○ 2. ◎ 3. ◎
教職に関する科目(小・中)									
教職概論	1. 教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。2. 教職への意欲、志向、使命感などを育む。	1. 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2. 教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3. 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. △	1. △	1. △			
教育原論	1. 教育を成り立たせる原則 2. 教育の現念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	1. 教育の理念, 目標, 思想, 歴史について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 教育について系統的に考えようとすることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				1. ○		2. ○
教育哲学	1．教育哲学の学問的性格 2．シュプランガーの生涯と教育哲学 3．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1．教育哲学の学問的性格が理解できる 2．シュプランガーの生涯と教育哲学が理解できる 3．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎						
教育史	1．日本の教育の理念・思想の歴史的展開 2．日本の教育の歴史的性格	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 日本の教育の歴史的性格について説明することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎				1. ○		2. ○
発達心理学	1．人間の発達の原理・要因について理解を深める。 2．発達段階及びその発達課題について学習する。 3．学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	1．自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 2．知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 3．日常生活に密接した興味・関心のある内容に意欲的に取り組む。 4．心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5．心理学を科学として位置づけることができる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎					
教育心理学	1．学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 3．いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1．子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3．いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 3. ○		1. ○ 3. ○		
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達（＝社会化）について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1. 社会化概念について説明できる。 2. 子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 3. 講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4. 現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎					
教育制度	1．学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2．基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1．学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2．教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1. ◎ 2. ◎				1. ○ 2. ○		
教育法規	1．教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1．現行教育法規の要点が理解できている。 2．主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	1. ◎ 2. ◎						
社会教育	1．生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1. 生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2. 社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1. ◎ 2. ◎						
教育方法学	1．授業の基本原則 2．主体的な学びの成立と指導 3．教育課程の編成	1．授業が持つ４つの基本的性格について理解し、説明できる。 2．児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 3．教育課程の編成原理と方法について説明できる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎					
教育メディア論（教育課程、情報機器及び教材を含む。）	教授・学習過程（授業）において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学修する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計・実施・評価についても学修する。	1. メディアを利用した授業の特徴を理解できる 2. 論理的、批判的な思考力と判断力について学び実践できる 3. メディアを利用した教材の開発ができる 4. 自発的、独創的に取り組む姿勢がもてる 5. メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎					
道徳教育	1．道徳の語源と意味 2．西欧の道徳観の変遷 3．道徳教育の目的・内容・方法	1．道徳の語源と意味について理解できる 2．西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3．道徳教育の目的・内容・方法について　理解できる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎	3. ◎				
特別活動	1．特別活動の目標と内容 2．学級指導の基本原則と方法 3．特別活動の指導計画	1．特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2．学級活動の指導原則とその方法について説明できる。 3．特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △			
生徒指導理論	1．生徒指導の意義と目的 2．生徒指導の内容と方法 3．生徒指導計画	1．生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2．生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3．生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △			
教育相談・進路指導	1．生徒指導と教育相談の違いについて説明する 2．学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 3．臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	1．生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2．不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3．臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
事前・事後指導	1. 教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2. 教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3. 教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する	1教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2. 授業記録を作成することができること 3. 授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4. 授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6. 教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7. 実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8. 教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の変容について説明することができること	3. ○ 7. ○		4. ○ 8. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎			
教職に関する科目(小)									

教科教育法国語	小学校の国語科教科書における文学教材の学習指導のあり方について考究する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文学教育が当面する課題や問題点を検討してゆく。	1．文学教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 2．文学教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 3．文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 4．多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 5．自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎					5．○
教科教育法社会	1．小学校社会科の教材研究と教材構成 2．小学校社会科の授業構成	1．地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 2．一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。		1. ◎ 2. ◎			1．○		
教科教育法算数	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 2. 小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。		1. ◎ 2. ◎					
教科教育法理科	小学校理科に関わる科学的事象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。	1.小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる 2.小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる 3.自然事象を初め、身の回りの事象に広く興味関心をもつ 4.理科に関する児童の興味・関心を高める教授法を工夫できる		1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ◎		4. ◎			
教科教育法生活	生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。	1．生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2．生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性ついて説明できる。 3．授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4．生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5．日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6．日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎			5．○		5．○
教科教育法音楽	1．小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2．実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。	1．小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2．学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。		1. ◎ 2. ◎					
教科教育法図画工作	本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普遍教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学Ⅰ〜Ⅳ」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。	1. 普遍教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。	1. ○	1. ◎					
教科教育法体育	1. 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2. 授業は体育領域（海野）と保健領域（友定）に分け実施する。そのため２グループ編成で、６～７回で担当交代する。	1. 小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容・教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。		◎					
教科教育法家庭	1．小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的変遷について 2．現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3．家庭科の独自性について 4．授業設計の基本的観点について 5．指導案の作成	1. 小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2. 家族や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3. 実習における安全、衛生を説明できる。 4. 家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する 5．「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6. 小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7. 授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8. 児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる		1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ◎ 5. ○ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎			7．○ 8．○		
教育実習(初等)Ⅰ	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 2．○ 3．○		
教科または教職に関する科目									
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて７日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○			◎	○		
教科に関する科目(小学校専門科目)									
初等科国語	本授業では先ず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考案し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点ちお方法について具体的な説明を試みる。	1．言語の機能について説明できる。 2．小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3．教材を多角的に検討し、指導すべき内容をの確に抽出できる。 4．言語の役割や働きに高い関心を持つ。　5．積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。 6．小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。　7． 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8．文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9．改革の視点を考えることができる。　10．授業改革について関心を示すことができる。 11．まじめに取り組むことができる。		1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎ 6. ◎ 7. ○ 8. ◎ 9. ◎ 10. ◎					
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視座から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1．小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。　2． 小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。		1. ◎ 2. ◎					
初等科数学	1. 学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する.	1．学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2．数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指導することができる。		1. ◎ 2. ◎					
初等科理科	1(前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 2(後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1.小学校理科に関する教材を科学的に理解する 2.自然事象に興味関心をもつ 3.小学校理科の教材研究ができる		1. ◎ 2. ○ 3. ◎		3.○			
初等科生活	1．小学校低学年の生活科授業を運営して行く上で必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1．生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2．体験型授業の基本を理解し、構想できる。		1. ◎ 2. ◎			2．○		
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1.音楽に関する知識や理論が身についている。　2.意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3.積極的に音楽的技能の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎					
小学校歌唱伴奏技	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形として、簡易伴奏法及び弾き歌いを学習する。	1．平易なピアノ曲を、中断せずに最後まで演奏することができる。 2．小学校の歌唱教材の弾き歌いができる。		1. ◎ 2. ◎					
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の３つの分野を学習する。	1．小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2．また、美的感覚を錬磨する。		1. ◎ 2. ◎					
初等科体育	1．小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通した学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。　2.なお、実技は２班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ７回ずつ行う。	1. 体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 2. 講義に真摯に取り組む態度 3. 体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導		1. ◎ 3. ◎					
初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・被服・住居・家族の4領域について学ぶ。	1. 家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する 2. 各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる 3. 専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎					
コース指定科目									
語学教授法	1. 小学校英語活動について、国際理解教育との関係、学習者特性、教材、指導方法等について、基本的な概念を解説する。	1.小学校における英語活動の特徴を理解し、小学校における英語指導にあたって留意すべき点を説明できる。 2.小学校における英語活動の役大方、活動のあり方について自分の意見を述べることができる。 3.様々な小学校英語活動に関心をもつ。	1. ○ 2. ◎ 3. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ○			1. ◎ 2. ○ 3. ○	1. 2. 3.	1. ○ 2. ◎ 3. ○
語学教授法演習	1. 小学校における英語指導のあり方について理解を深め、小学校英語活動の実践的な技能を身につける。	1.小学校における英語活動の特徴を理解し、その留意点を説明できる。 2.小学校における英語活動の役大方、活動のあり方について自分の意見を述べることができる。　3.様々な小学校英語活動に関心をもつ。 4.他人の意見を尊重し、協調的かつ建設的な議論が行える。 5. 模擬授業に際して、実践に必要な技術・方法を選択・適用できる。	1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. 5.	1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. 5. ○			1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. 5. ◎		1. ○ 2. ◎ 3. ○ 4. ○ 5. ◎

国際理解教育概説	1. 国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2. 各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3. 現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1. 国際理解および国際理解教育の必要性や概念 と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2. 国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3. 日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1. ◎ 2. ○ 3. ◎	1. 2. ◎ 3. ○			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ◎ 2. ○ 3.	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎
異文化体験実習I	1.Students will develop their own definition of culture and become aware of a number of specific ways it effects their lives and thinking. 2.They will become more aware of the differences and similarities between theirs and other cultures and through this process learn more about what it means to be Japanese.	1. Understand that people of different cultures may view the same object or concept in quite different ways. 2. To begin looking at differences and similarities in an objective rather than subjective way 3. To show interest in others' as well as one's own culture. 4. To actively engage with classmates and guests in English. 5. Use skills developed in English Communication to interact with classmates and people from other countries in discussions, etc., in English about culture					1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. 4. 5. ◎
異文化体験実習II	1.異文化について体験的な知識を得るとともに、他文化を大切にする態度を身に付ける。 2.世界の地理・歴史、また国際社会についての見聞を広める。 3.現地の人々との交流を通して、コミュニケーション能力を磨く。 4.自主性と協力の大切さを学ぶ。 5.自己管理の大切さを知る。 6.準備・調査の大切さを知る。 7.団体行動の規律を学ぶ。	1. 訪問国の社会、歴史、文化について一定の知識を得る。 2. 訪問国の に文化的・社会的事象を論理的に考えることができる。 3. 国際機関の役割について一定の知識と理解を得る。 4. 訪問国の環境や人々の価値観に配慮した行動が取れる。 5. 積極的に訪問国について調査する。 6. 現地の人々と積極的にコミュニケーションを図る。 7. 規律ある行動を取れる。 8. 実習を通して得た知識と体験を、適切な方法で人に伝えることができる。	1. △ 2. △ 3. ○ 4. △ 5. △ 6. △ 7. △ 8. △	1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. 6. ○ 7. 8. ○			1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. 5. 6. 7. 8. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ◎ 5. ○ 6. ◎ 7. 8.	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. 5. ◎ 6. 7. 8. ◎
国際理解教育論	1. 国際理解教育とは何かを理解する。 2. 国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3. 国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1. 国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2. 地球的な課題について理解し、自分の意見を持てる。 3. 学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。 4. 学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 5. 複雑な国際問題を理解しようとする。 6. 批判的に考えることができる。 7. 自分の意見を論理的に発表できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ○ 6. △ 7. △	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. 6. ○ 7. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. 6. 7. ○	1. ○ 2. ○ 3. 4. 5. ○ 6. ○ 7.	1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ○ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎
国際理解教育演習	1. 教育実習との関連を視野にいれながら国際理解教育に関する教育実践例の収集方法を修得する。 2. 教育実習との関連を視野にいれながら、実践例に対する批評的評価方法やプレゼンテーション力を修得する。 3. 教育実習との関連を視野に入れながら指導案の作成能力と発表および討議能力を向上させる。	1. 国際理解教育に関する教育実践例の収集をすることができる。 2. 国際理解教育の実践例を批判的に分析し、意見を述べることができる。 3国際理解教育を取り入れた指導案を作成することができる。 4. 作成した指導案を適切な方法で発表することができる。 5. 他の学生が作成した指導案について、自分の意見を述べることができる。	1. △ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ○	1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎	1. 2. 3. ○ 4. ○ 5. ○		1. ◎ 2. ○ 3. ◎ 4. ◎ 5. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. 4. ○ 5. ○
教育環境形成論	1.新しい教育課程のなかで総合的な学習の時間について理念と方法、現実の状況を解説する。 2.そのことによりテーマの設定、教材の開発、試作を行なう。 3.国際理解学習の教材開発のために、マレー文化とマレー語の初歩を習得し、教育環境の形成における考え方を理解する。	1. 総合的な学習について理解する。 2. 異文化を意識した教材作成への関心を高める。	1. ◎ 2. ○	1. ◎ 2. ◎	1. ○ 2. ○		1. ◎ 2. ◎	1. 2. ○	
異文化学習論	1.文化および異文化理解に関する基礎的な事項を理解する。 2.理解した事項を実際の社会問題と結びつけて考えることができる。 3.自分自身を客観的に見つめることができる。	1. 異文化理解に関する語句、概念、理論を理解し、説明できる。 2. 学んだ概念や理論を実際の社会問題に当てはめて考え、自分の意見を述べることができる。 3. 学んだことを自分の日常生活に当てはめて考えることができる。 4. 自分の意見をはっきりと論理的に伝えることができる 5.メディアの持つメッセージの意図を見出すことができる:	1. △ 2. ○ 3. ○ 4. △ 5. △	1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. 5.		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. 5. ◎	1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ○	1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ○
欧米文化論I	1.文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。 2.歴史の中で、アメリカ合衆国という国がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。 3.多くのエスニシティーを抱えるアメリカ社会の歴史的変遷を知ることで、多民族共生の道への洞察を得る。 4.人種差別撤廃、女性差別撤廃が、人権の拡張という観点から類似した問題であることを理解する。	1. アメリカの歴史的形成についての知識を得る。 2. 歴史的事象が今日のアメリカ社会の形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 3. 参考文献、インターネットなどを調査し、アメリカについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 4. 与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 5. 発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。	1. △ 2. △ 3. ○ 4. ○ 5. △	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎	1. 2. 3. 4. ○ 5.		1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ○ 5. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 45. ◎	1. 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎
欧米文化論II	1.文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。 2.歴史の中で、ヨーロッパと言う地域がどのようにが形成され、今日の姿になったかを理解する。	1. ヨーロッパの歴史的形成についての知識を得る。 2. ヨーロッパの多様性についての理解を深めるとともに、ローマ文明、キリスト教といった共通の基盤をもつことも理解する。 3. 歴史的事象が今日のヨーロッパの形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。 4. 参考文献、インターネットなどを調査し、ヨーロッパについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。 5. 与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 6. 発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。	1. △ 2. △ 3. △ 4. ○ 5. △ 6. △	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. 6. ◎	1. 2. 3. 4. 5. ○ 6.		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ○ 6. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. 6. ◎	1. 2. ○ 3. ◎ 4. ◎ 5. ○ 6. ◎
アジア・アフリカ言語文化入門	リンガラ語を通して、アフリカの社会、文化、歴史に触れることを目的とする。	1. リンガラ語の初等文法を理解する。 2. リンガラ語を話すようになったらの文化を理解する。 3. アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。 4. 初歩的なリンガラ語を話すことができる。	1. △ 2. △ 3. △ 4. △				1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	
異文化学習演習	1.現代の世界で起きている民族間の問題についての知識、理解を深める。 2.自分の生きている社会と学んだ事例との関連に気づく。 3.授業で得た知識をもとに、自分で関心のあることを調査し、発表する。	1. 「国」の多様さ、複雑さを理解する。 2. 世界の民族間問題についての知識を得る。 3. 民族問題の原因や現状について考え、自分の意見をもつことができる。 4. 様々な方法で情報収集し、問題理解のために適切な資料かどうかを判断することができる。 5. 調べたことを論理的にわかりやすく伝えることができる。	1. △ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. △	1. 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ◎	1. 2. ○ 3. ○ 4. 5.		1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ○ 5. ◎	1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. 5. ○	1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎
英語コミュニケーションI	1.Students will learn to USE basic English expressions accurately and with clear pronunciation to tell others what they see, feel, think or have experienced. 2.They will also learn how to ask and respond to questions or statements appropriately and with a certain amount of speed and assertion.	1. Singular/plural, articles, time and tense, subject verb agreement, speaker/listener relationship, use of pronouns, timing and use of responses or questions 2. Motivated to learn how to use new expressions as well mastering ones already known. 3. Active and assertive use of English in class with classmates and teacher. 4. Correct use of expressions and sounds practiced in class. Quick and appropriate response to questions and statements.	1. △ 2. △ 3. △ 4. △	1. 2. 3. ○ 4. ○			1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	1. 2. 3. ○ 4.
オーラルI	[See also the note under Oral II] 1. All these three courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. 2. Continued work on pronunciation will be expected. 3. This is very much a course in 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions – not to give one-word answers, always to stay alert, and coasionally to initiate an exchange. 4. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. 5. Basic structures are rehearsed, especially countability, the use of articles and verb patterns.	1.Students practice with a native speaker in speaking and listening. 2.Students work on pronunciation. 3.Students particiate in classroom activities. 4.Students use basic structures.						1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	
オーラルII	[See also the note under Oral II] 1.As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. 2.Moreover, he provides the link with the living language of his native country. 3. The grammatical structures (re-)	1.Students try to speak English fluently 2.Students understand English as a living language. 3.Students learn grammatical structures.						1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	
ライティングI	1.The keynote of this course is grammatical accuracy. 2. Awareness of the contrastive grammar of English and Japanese can do much to alleviate problems of native-language interference in composition. So many areas of English grammar provide these contrasts – articles, plurals, countability, parts of speech and so on – and the students will be continually practised in handling these difficult features. 3.Each week a grammatical topic will be dealt with and students will be expected to submit a short essay (not less than 200 words) demonstrating their grasp of the problem. 4.A lively range of topics will be decided by this continuous assessment and on the basis of a 500-word essay to be submitted at the end of the course.	1. Students will be continually practised in handling the problems of native-language interference in composition. 2.Students will be expected to submit a short essay (not less than 200 words) demonstrating their grasp of the problem. 3.Students submit a 500-word essay at the end of the course.						1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. ◎
卒業研究									

卒業研究	1. 卒業研究のテーマ、目的、研究方法、研究計画を各自で明確にし、説明できるようにする。 2. 文献や資料の入手方法を修得する。 3. 批評的な読み方や考え方を修得する。 4. 自身の論文にとって適切な調査方法修得する。 5. 論文の構成を考え論理的な展開と表現方法を身につける。 6. 論文発表を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る。	1. 論文および論文作成の過程を理解する。 2. 自分の論文のテーマについての知識を得る。　3. 必要な文献や資料が何かを判断し、入手することができる。 4. 適切な調査方法は何かを判断し、主体的に実施することができる。 5. 文献や資料、調査結果を批判的に読み、考えることができる。 6. 論文の構成を考え、論理的な主張を展開できる。 7. 自分の主張を適切な表現で文章に表わすことができる。 8. 自分の論文の内容をわかりやすく伝えることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎	1. 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ○ 6. ○ 7. ◎ 8. ◎			1. 2. ◎ 3. ○ 4. ○ 5. ○ 6. 7. ○ 8.		1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎
ＧＰ項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）									
総合的ＧＰ到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）									